

新色の金魚を目指して

水産科 2 年 谷山めぐみ

1. はじめに

家で金魚を飼育しているうちに金魚に興味を持ち、高校で金魚について学びたいと思うようになったからです。

2. 研究の目的

本研究は、真っ赤な金魚と青い金魚を作出することを目的としています。

真っ赤な金魚はバラの様な赤で体のみならず、ヒレまで赤い金魚を理想とし、青い金魚はコバルトブルーのような涼しげな色を理想としています。

3. 金魚とは

コイ目コイ科コイ亜科フナ属 に属する、品種改良されたフナです。中国原産で品種は 100 を超えると言われています。

体色は白、オレンジ（金色）、赤、黒、茶などさまざまで、横向きから観賞する品種と上向きから観賞する品種があります。

4. 材料と方法

実習池の金魚を親魚とし、11 号池にてキンランを用いて採卵しました。

その後、バイテク室内にて孵化させ、孵化後 11 号池にて飼育しました。

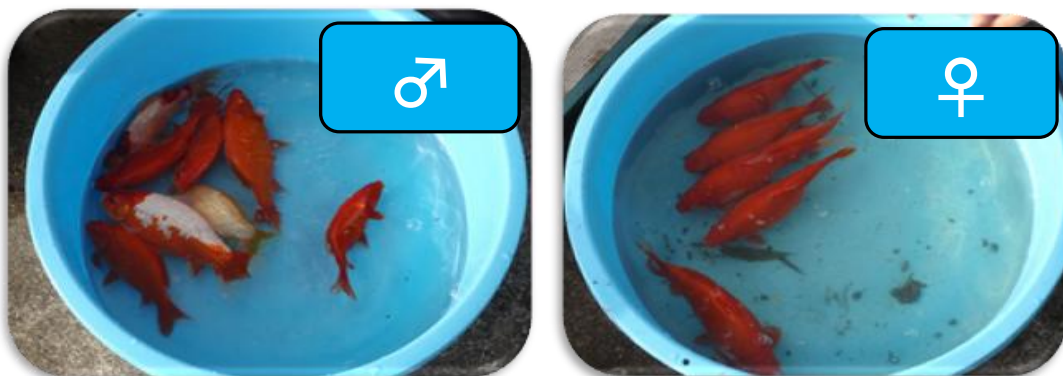


図 1 使用した親魚雄と雌

5. 結果

結果は下のグラフの通りです。今回得られた金魚は、全部で 139 匹でした。

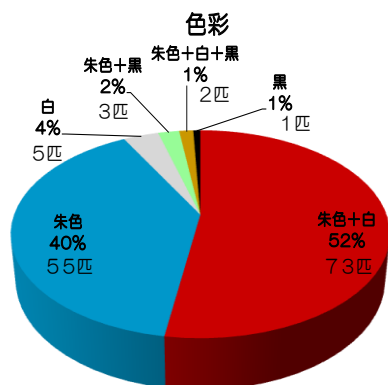


図2 生まれた金魚の色彩の割合

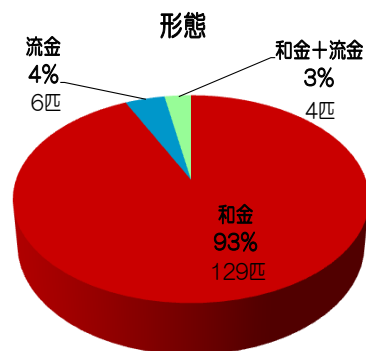


図3 生まれた金魚の形態の割合

色彩の割合は朱色に白が混じったものが 52%、朱色が 40%、白が 4%、朱色+黒が 2%、黒が 1%、朱色+白+黒が 1%でした。

形態の割合は和金が 93%、流金が 4%、和金と流金がまざったようなものが 3%でした。



図4 生まれた金魚

6. 今年の反省

実験に取り組む時期が遅く、産卵期ギリギリでの採卵になってしまったので、来年は早い時期からキンランを設置し、実験に取り掛かるようにしたいと思います。

また孵化後、早い段階で病気に感染し、大量死してしまいました。日々の金魚の様子をチェックできるよう毎日観察しようと思います。

7. 来年に向けて

濃い赤色を作出するため、朱色が濃いもの同士をかけ合わせたり、青色を作出するために、黒い金魚を親魚として用いようと考えています。

来年は、理想の色の金魚を作り出すために頑張りたいと思います。



図5 来年用の親魚